

AGE DOOR **プリンス**

全米から全世界へ — “プリンス” 衝撃の第1回主演作品

パープル・レイン

愛と青春を賭けて 熱いビートが吹き荒れる。“プリンス” — いま全世界がおまえのステージだ!

紫は恋の色...紫は涙の色...
紫は夢の色...そして、いま
紫にけむる雨の中から
一人の若者が
大いなる栄光に向けて
翔び立った!

Prince
in his first motion picture
Purple Rain



プリンス「パープル・レイン」

キャバロ・ラファロ&ファークノリ・プロダクション

アポロニア・コテロ・モリス・テイ・オルガ・カーラトス・クラレンス・ウィリアムス3世

オリジナル音楽作曲・製作プリンス・脚本アルバート・マグノーリ&ウィリアム・プリンス

製作ロバート・キャバロ・ジョセフ・ラファロ・スチーブ・ファークノリ・監督アルバート・マグノーリ

●オリジナル・サウンドトラック ワーナー・バイオニア・レコード&テープ ワーナー・ブラザーズ映画配給 DISTRIBUTED BY WARNER BROS. A WARNER COMMUNICATIONS COMPANY

DOLBY STEREO
IN SELECTED THEATRES

ロック界の天才児 プリンス愛と青春!

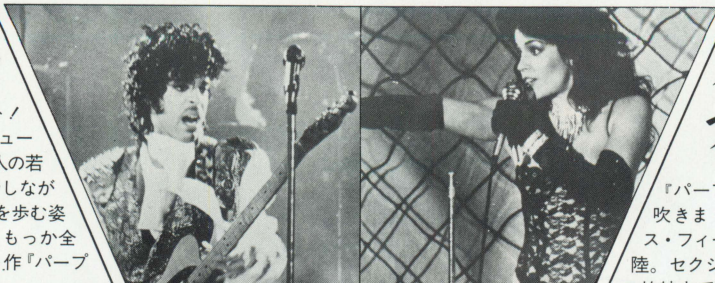
はじけるサウンド、しびれるビート/熱狂と興奮がうずまきロック・ミュージックの世界を舞台に、悩める一人の若者が愛と夢を求めて、傷つき、挫折しながらも自立してスーパースターの道を歩む姿を感動的なタッチで描いたのが、もっか全米ヤングに爆発の人気の大ヒット作『パープル・レイン』だ。

公開3日目にして製作費の700万ドルをはるかに上回る収入を記録して全米の興収ベストワンにおどり出た驚異的なヒット作であり、「フラッシュダンス」「フットルース」につづく新感覚のパワフルな青春映画の決定版である。

『パープル・レイン』の最大の話題は、彗星のごとくポップス界のスーパースターにのしあがった若き天才ミュージシャン、プリンスが衝撃的な映画デビューを飾っていることだ。プリンスは、すでに80年と82年の2回にわたってプラチナ・ディスク(売り上げ100万枚以上)を獲得する大ヒットを飛ばしていたが、84年5月にシングル『ビートに抱かれて』、7月にアルバム『パープル・レイン』がリリースされるや、あれよあれよという間に好ライバルのマイケル・ジャクソンを追い抜き、全米No.1の座についた。とくに『パープル・レイン』の人気は凄まじく「キャッシュ・ボックス」誌のチャートで8週連続第1位に輝き、3枚目のプラチナ・ディスクに認定された。また、シングル第2弾の、『レッツ・ゴー・クレイジー』も現在トップを独走中という大フィーバーぶり。

そして、この自伝的な要素をたっぷり盛りこんだ念願のデビュー映画『パープル・レイン』も公開1週目にして「バラエティ」誌の興収ランキングで初登場第1位という物凄いヒットぶりだ。

プリンスの映画主演の企画が持ち上がったのは2年まえのことで、プロデューサーたちが「質の高いプロジェクトにするため、じっくり時間をかけた」と言うだけあって、作品の完成度も「ポップ・シーンにこれほど鮮明に新しい世代の登場を予感させた映画は、64年の『ビートルズがやって来るヤァ!ヤァ!ヤァ!』いらいのことだ(『ローリング・ストーン』誌)と高く評価されている。キャストは、主役のプリンスを中心に、ここのシンデレラ・ガールと注目を集めているアポロニアをリーダーとする美人トリオ・グループ「アポロニア6」モリス・デイがひきいるアメリカでいちばんホットなファンク・バンド「ザ・タイム」など、文字通りプリンス・ファミリーのメンバーでしっかりかためられている。そのほか、「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ」の名女優オルガ・カーラトス、TVシリーズ『モッズ特捜隊』でも有名なブロードウェイのベテラン俳優クラレンス・ウィリアムズ3世が、プリンスの母と父という重要な役を演じて、ドラマチック・シーンを盛りあげている。



俺の生きてきた 全てが俺のロック Prince プリンス

『パープル・レイン』の大ヒットで全米に吹きまくっている紫のつむじ風くプリンス・フィーバーが、いよいよ日本にも上陸。セクシュアルでスキャンダラスなカリスマ的魅力で、人をひきつけるロック界の天才児プリンスは、いまはやりの性別を超えたアンドロジナス(両性具有)という新時代感覚にふさわしい最も新鮮なヤング・アイドルだ。プリンスの出現はポップス史上、ビートルズらしい衝撃的な「事件」とまで言われ、有力紙『ロサンゼルス・タイムズ』もプリンスのことを「芸術の変革者だ。彼のビジョンはコンテンポラリー・ミュージックの感覚を完全に一変させてしまった」と大賛辞をこめて書き添えているほどである。映画『パープル・レイン』はプリンスが自分の人生と音楽の集大成としてすべてのパワーを叩きこんだ作品であり、これまで謎に包まれてきた彼の実像が鮮やかに浮かびあがってきて人の心をうつつ感動的な傑作なのである。

プリンスが生まれたのは1961年(一説によると1958年)6月7日、アメリカ北部ミネソタ州の工業都市ミネアポリス。本名プリンス・ロジャース・ネルソン。父はジャズ・ピアニスト、母はシンガー。5歳のとき、父のステージを見てミュージシャンになろうと決意、父のビュノで独学。7歳のとき、両親が離婚して不幸な少年時代がはじまる。その孤独感をまぎらわすため作詞作曲に没頭。12〜13歳のころ、友人アンドレ・サイモン宅の地下室に住み、初めてのバンド「ジャンペン」を結成、地元のクラブで人気を得る。そのあと、デモ・テープをつくって積極的にニューヨークのレコード会社に売りこんだが、「自分のレコードは自分でプロデュースする」という強い信念があったため3件の契約申し出をことわる。16歳のとき、ワーナー・レコードと契約。プリンスはワーナーから自分のレコードをプロデュースすることを許された初めての最年少アーティストだった。

17歳で早くも20種以上の楽器を弾きこなすマルチ才能ぶりを発揮、全曲自作自演、セルフ・プロデュースによるデビュー・アルバム『フォ・ユー』をリリースして注目を集め、あとは『愛のペガサス』、セクシュアルなあまりラジオ放送禁止で話題を呼んだ『ダーティ・マインド』、『戦慄の貴公子』、代表的傑作『1999』と一作ごとに新しい音楽を切りひらくアルバムを発表しつづけ、84年、ロック史に残る名盤『パープル・レイン』で一気にスターダムの最高峰をきわめた。現在までのレコードの売り上げはおよそ1000万枚に達し、「その音楽的天性とビジョアルなインパクトにおいて、プリンスはエルビス・プレスリー、ミック・ジャガー、デビッド・ボウイに比肩するスーパースターだ」と『ニューヨーク・タイムズ』『プレイボーイ』をはじめマスコミ界はこぞって称賛している。

『パープル・レイン』の画期的成功によって、レコード界でニューウェーブ感覚のヒーローとなり、映画界でアイドル・スターとなったマルチ人間のプリンスは、こんどは自分が主演する映画の監督にも乗りだす意欲に燃えている。早ければ今年、もう一度プリンスに逢えるかも知れない。

プリンス パープル レイン



★キャスト★

ザ・キッド……………プリンス
アポロニア……………アポロニア・コテロ
モリス……………モリス・デイ
お母さん……………オルガ・カーラトス
お父さん……………クラレンス・ウィリアムズ3世

★スタッフ★

監督……………アルバート・マグノーリ
製作……………ロバート・キャバロ&
ジョセフ・ラファロ&スチーブン・ファークノリ
脚本……………アルバート・マグノーリ&ウィリアム・プリン
オリジナル音楽作曲&製作……………プリンス
撮影……………ドナルド・L・ソリン
〈上映時間……1時間51分〉

